

令和6年度 第2号(通巻7号)

しんこうじ

# 真光寺遺跡 発掘たより

2024年8月26日発行

## ★現地説明会を開催しました！

7月20日(土)に真光寺遺跡で現地説明会を開催しました。地元波田地区の方々を中心に96名もの多くの皆様にお越しいただきました。

当日は、現在発掘作業中の現場で、方形に巡る中世の溝跡、<sup>みぞあと</sup>ふいごの羽口や鉄滓などが出土した近世の<sup>たてあなじょういこう</sup>竪穴状遺構などを見学していただきました。また、現場プレハブでは、今年度みつかった遺構から出土した遺物のほかに、これまでの3年間でみつかった土器や<sup>せんか</sup>銭貨などの遺物を展示し、大変熱心にみていただきました。



遺構解説の様子



遺物解説の様子

見学者からは調査の内容に加えて、<sup>わたせき</sup>和田堰や用水管理の関係性についての質問などをいただきました。また、古墳から出土した甕の大きさに感動していただき、短時間でしたが掘り出された地域の埋蔵文化財をより身近に感じていただけたと思います。

## ★これまでの調査成果 ～整理作業土器接合編～



① 令和4年度にみつかった古墳と土器



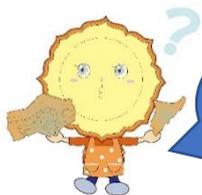
② 接合作業の様子



③ 復元した土器

今年度は発掘作業に加え篠ノ井の当センターにおいて、令和3年度から令和5年度の調査でみつかった遺物等の整理作業を行っています。整理作業では、左の写真①のようにばらばらに割れた状態でみつかった土器をつなぎ合わせる、<sup>せつごう</sup>接合作業を行っています(写真②)。3枚の写真に写る土器は、<sup>すえき</sup>須恵器といわれる高温で焼かれた硬い土器で接合して、復元したところ高さ約120cm、重さ47kgを超える、大きな<sup>かめ</sup>甕であることがわかりました(写真③)。遺物の全容が明らかになることは、遺構や遺跡を検討する上で重要な役割を果たしていきます。

調査の最終年度である今年は9月まで、発掘調査を行います。ご理解・ご協力をお願いします。



この甕は令和4年に調査した飛鳥時代～奈良時代はじめにつくられた古墳の入り口からみつかりました。

(問い合わせ先)

長野県埋蔵文化財センター

〒388-8007 長野市篠ノ井布施高田 963-4

電話：026-293-5926

メール：maibun@naganobunka.or.jp

H P：<https://naganomaibun.or.jp/>

担当：杉木/鈴木/酒井